

(大島郡伊仙町面縄)

位置と環境

貝塚群は、町の中心部から東に約3km離れた伊仙町面縄に所在し、面縄川が兼久浦の浅い小湾に注ぐ袋状地形の隆起珊瑚礁の崖下に形成された貝塚で、現在第1～第4貝塚までが周辺に所在する。町東公民館横の道路断面に貝層が、面縄東浜で県道横の窪田実喜祐宅には、貝層がみられ石器や土器、螺蓋製貝斧等の出土が見られる。徳之島の地形は、高さ200m付近を境として、山地と隆起珊瑚礁に大別される。この山地を取り巻くように、海岸に向かって緩やかに傾斜した段丘が広がり島の東南から南部西南にかけて、隆起珊瑚礁が発達して、広大な海岸段丘を形成している。

調査の経緯

第1次調査【昭和57年10月4日～11月9日】

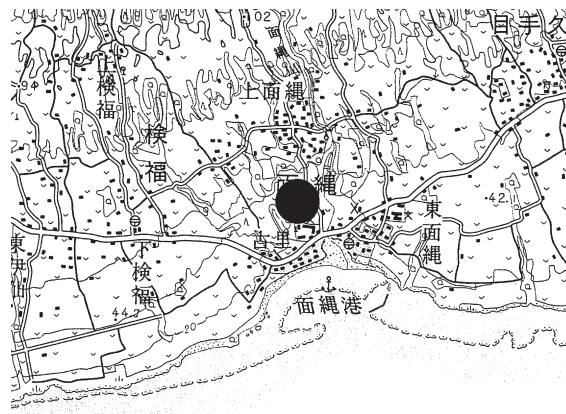
面縄貝塚は、昭和3年に発見され、その後、昭和5年から昭和31年まで数回に及ぶ発掘調査が行われた。奄美大島のサウチ遺跡、宇宿貝塚等の本格的発掘調査によって新事実が次々と判明しつつあるが、本貝塚は土器の編年等南島の文化を解明する重要遺跡で昭和57年度から確認調査を実施した。

第1貝塚は、昭和3年大村行長によって発見され、昭和5年、昭和10年にも調査が行われた。面縄小学校より西約200m南東に開口する隆起珊瑚礁で形成される狭小な谷状地形内にある。

第2貝塚は、昭和5年小原一夫によって発見され、その後、昭和10年、28年、29年の調査を経て、昭和31年に九学会連合会奄美大島共同調査委員会考古班が本格的な調査を行った。面縄小学校東隣、西兼久から面縄川へ流入する小川の南岸から福井宅の西側にかけての、通称クランクシと称する一帯の砂丘状にある。

第2次調査【昭和59年11月12日～12月9日】

第3貝塚は、昭和29年5月の九学会調査の際、河口貞徳が発見した。面縄兼久浦の海岸より約400mの隆起珊瑚礁の斜面に位置し、第2貝塚の北東方230mにあたる。第4貝塚は、第2貝塚を北に約150

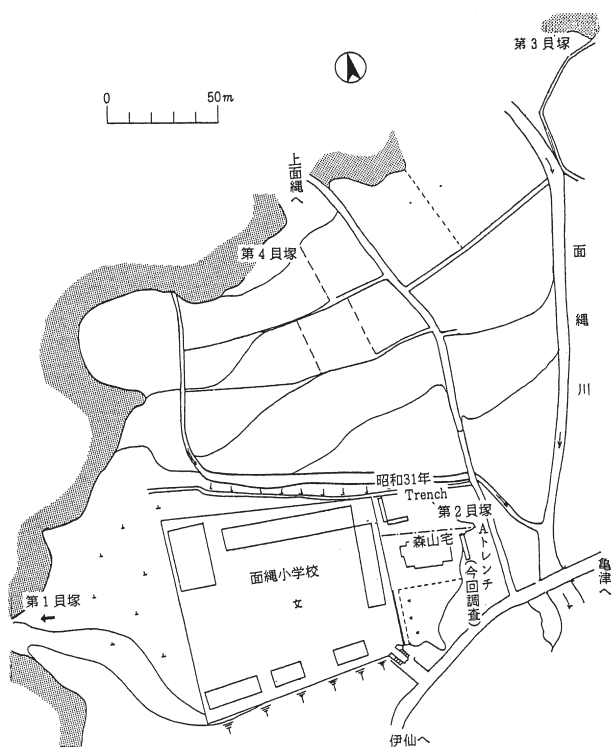


第1図 面縄貝塚の位置

m離れた砂守宅裏の珊瑚礁の崖地にあり、隆起珊瑚礁の洞穴とその前庭部にかけて形成され、昭和29年8月に国分直一と三友国五郎によって発見された。昭和31年8月九学会により調査が行われた。

遺構と遺物

第1貝塚は、貝塚・洞穴・開地の遺跡である。遺構は、第1洞穴に埋葬施設（箱式石棺墓）が検出された。石棺は第VI層に埋葬され、左側石に4個の



注：九学会連合刊「奄美その自然と文化」所載の地形図を参考にして作図した。

第2図 面縄貝塚群地形図

大形石灰岩魂を、右側石に14個の石炭岩魂を使用し
両小口には扁平な石灰岩魂を使用し、頂部は中央部
を削りとした状態である。

土器は、兼久式・面縄前庭式・市来式・爪形文な
どが出土した。

また多量の貝製品が出土し、貝製品はそれらの用
途によって装飾品（貝輪・垂飾品・有孔貝製品）と
実用品（螺蓋製貝斧・貝匙・貝容器・穿孔貝）に大
別できる。貝輪の素材はオオツタノハとサラサバテ
ィであり、実用品は、ゴホウラ貝・タカラ貝・夜光
貝を使用している。

石器は、軟弱な砂岩を石材に用いた抉りのある石
斧である。古銭は「開元通宝」3点が出土し、貝層
下部からの出土である。

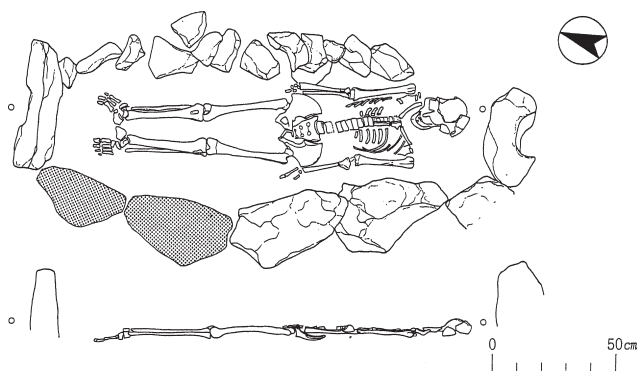
第2貝塚の出土遺物は、嘉徳Ⅰ式土器・嘉徳Ⅱ式
土器があり、自然貝の出土はあったが、石器・貝製



第6図 第1貝塚トレンチ配置図

第3貝塚は、地名をとって兼久貝塚とも呼ばれて
おり、珊瑚礁崖と棚状台地からなる、昼なお薄暗い
地で洞穴と貝塚からなる遺跡である。出土した土器
は兼久式土器で、器形が深鉢形の平底を呈し、口縁
部は外反している。底部には木葉の圧痕を呈す。文
様は沈線文を主とし、粘土紐をはりつけた凸帯を頸
部に施し、凹帯上に刻目を施している。本貝塚は、
兼久式土器の標識遺跡である。

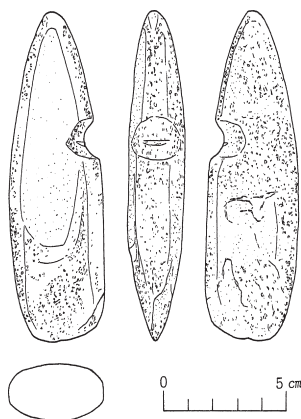
石器は円礫を利用した磨石・石皿・チャート剥片
が出土。貝層からは、実用品の貝製品（貝匙・穿孔



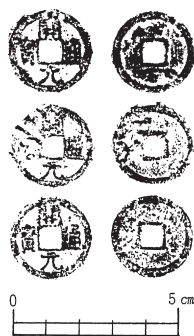
第3図 人骨出土状況

品の出土はなかった。

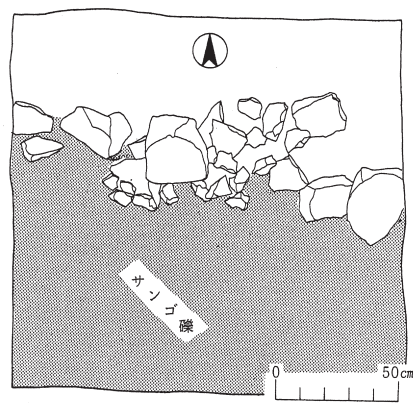
また、珊瑚礁礫をぎっしりと敷いた遺構が検出さ
れ、宇宿貝塚、住吉貝塚の住居跡に類似する。



第4図 石斧



第5図 古銭拓影

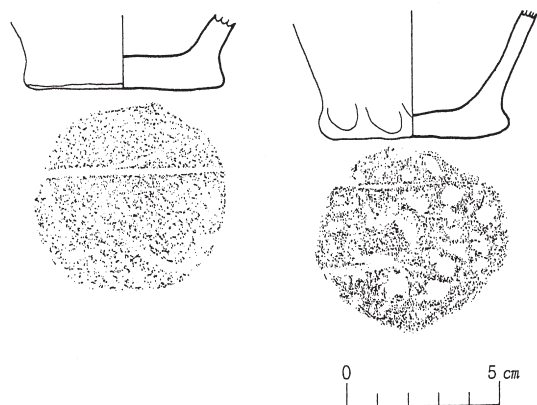
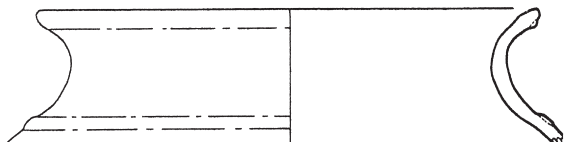


第7図 A-2区 住居跡状の遺構

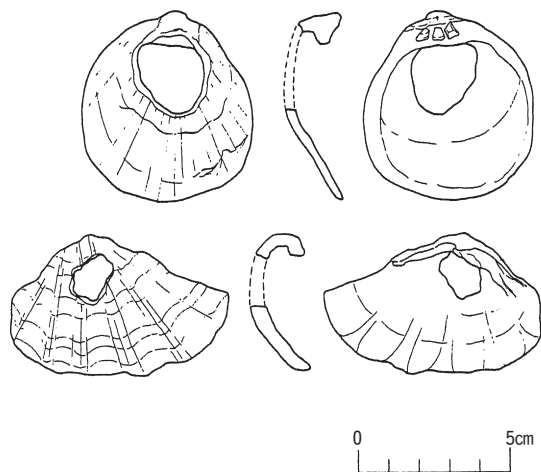
貝・螺蓋製石斧）が出土した。

第4貝塚は、隆起珊瑚礁の洞窟部とその前庭部とからなり、洞窟は東西2か所に形成されている。東側洞窟部からの遺物は、貝殻条痕文を施す土器片・小形石斧・大形石斧・凹石・石皿・貝器等の人工遺物のほか多量の獣・魚骨が出土した。

西側洞窟部からの遺物は、面縄前庭式を中心とした土器片・石器等が出土した。



第8図 A-2区出土土器



第9図 第3貝塚出土貝製品

特徴

徳之島では、シカ骨の出土がない。

面縄貝塚群は、昭和初期より多くの研究者によって調査・報告がなされ土器型式等南西諸島の考古学研究の基礎となっている。

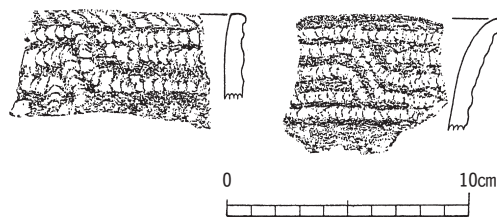
資料の所在

出土遺物は、伊仙町歴史民俗資料館に保管されている。

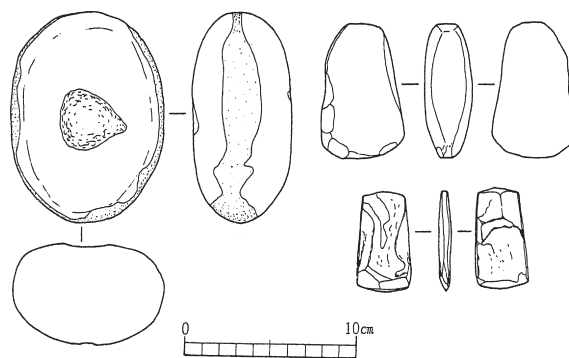
参考文献

伊仙町教育委員会1985「面縄貝塚群」『伊仙町埋蔵文化財発掘調査報告書』3

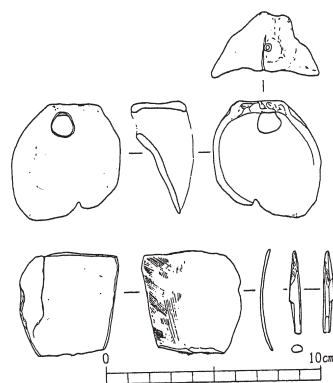
(伊藤勝徳)



第10図 第4貝塚出土土器



第11図 第4貝塚出土石器



第12図 第4貝塚出土貝製品・骨格製品